宮崎大学教育学部附属中学校　校長室だより

北斗（ほくと）

令和７年４月１６日発行

伝えたい言葉
どんな命も長い長いつながりから
生まれてます　黒柳徹子

人権・平和・命の学び
～不易といわれるものを大切に～

本校２年目となりました校長の川﨑昌彦です。昨年度末に、課題を洗い出し、本校に必要なことは何かを考えてみました。

本校の生徒は、創意工夫を凝らしながら探究する力を育てることができています。その反面、心ない言葉を発したり、行動をとってしまったりして、トラブルを生むことも多いと感じていました。

本校の学校経営ビジョンには**「人権・平和・命」**という言葉が明記されています。現在の世界情勢や社会の姿を見たときに、それぞれのものが大切に守られているのかは甚だ疑問であり、残念です。

そこで本校では、変化の激しい時代にあっても、譲れない不変のものを追究していくことが大切だと考え、全職員と全校生徒に、このことを話しました。

入学式式辞に盛り込んだ内容の一部を紹介します。

生徒の皆さんには、どのように世の中が変わろうとも**「人権・平和・命」は尊いもの**であるという学びを積み重ねてほしいと思います。学校、学年、学級という集団を「小さな社会」と考えてみましょう。その社会の中には、多様な考え方や性質をもつ生徒や職員が集うことになります。それぞれの違いを知り、違いを認めることができれば、**対等で自由な人間関係を築くこと**ができます。自分にはない目の前の人のよさをお互いに伝え合うことができれば「どうせ自分なんて」というネガティブ思考が生まれることが抑制され、**自己信頼感を生むこと**にもつながります。

ただし、皆さんが所属する「小さな社会」では、**予期できない衝突が起こること**も考えられます。それは、集団の中にある多様な考え方や性質と、皆さんがこれまでに経験してきた価値観とに**ずれ**があるからです。そのようなときには**「困った」「助けて」と声をあげてください**。そのことが相互理解につながり「小さな社会」が少しずつ過ごしやすい集団に変わっていきます。人権が尊重され、安心して過ごせる場所になります。こうした学校・学級の雰囲気を経験することによって、**皆さんの人権感覚や共生感覚は養われていく**と信じています。個人の**違いを認め合い、尊重し合うことができる学び**を進めましょう。

「優しい学校」とは、誰もが安心して生活を送り、学びを進められる学校です。成長を実感できる学校です。生徒の皆さんの頑張りやすばらしさを感じたときには、私自身も率先して称賛します。また「人権・平和・命」を軽く考えている場面を目の当たりにしたときには、厳しく指導をします。大切なことを確実に育てられるように、意識していきましょう。

歓迎　ようこそ附属中へ！

４月８日に第７８回入学式が挙行されました。新入生１４６名が来賓、職員、在校生、保護者等に見守られ、学級担任の先導に続いて体育館アリーナに入場しました。新入生の凜とした表情、真新しい制服を身に纏った姿に、保護者の皆様の感激もひとしおのようでした。新入生の代表生徒は、誓いの言葉で次のようなことを述べてくれました。

附属中学校の校歌に「つねに高く北斗のように」という歌詞が刻まれています。一人ひとりが輝き続ける附属中学校の生徒の一員として、つねに高く、自分たちの目標に向かって、精一杯努力し、悔いのない中学校生活を送っていくことを誓います。

悔いのない中学校生活を送るためにも**「知ること」「考えること」「自ら行動すること」**を日々の学びの中で体現してほしいと願っています。

また、１０日の５・６校時には、生徒会総務が主体となり企画した対面式が実施されました。**「moment～望・綿・翔～」**というヴィジョンのもと、新入生は学校について深く知ることで不安を解消すること、在校生は今後の生徒総会などに向けてお互いに意見を述べやすい環境を作るというねらいで実施されました。これから様々な行事等で関わる、学年を縦割りにした**「ファミリー」との出会い**があり、生徒会が企画した動画や劇を用いたオープニングは、とても楽しいものでした。ファミリーで校内をめぐってポイントをためるゲームも、和気藹々とした雰囲気で上級生が下級生をリードしていました。クロージングでは、１年間のファミリーカラーが決定されました。３年生の学級担任がひげをつけたマリオに扮して風船を押し出し、ファミリーカラーが決まると、アリーナいっぱいに歓声が響きわたりました。Ａ級が黄、Ｂ級が赤、Ｃ級が青、Ｄ級が白で、Ｅ級は交流学級に入ります。

１５日の結団式以降は、５月１１日に計画している体育大会にむけて短期間で練習や準備を進めていくことになります。さらに絆が深まっていくことでしょう。附属中学校ならではの取組を充実させながら、生徒の皆さんの主体的な学びを期待しています。

左から順に、風船をもった寶田先生、柳田先生、島津先生、渡邉先生